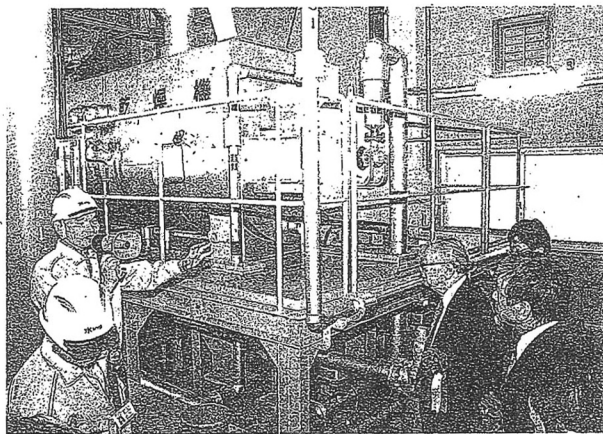


下水汚泥を安定処理

黒部市下水道バイオマス(生物資源)エネルギー利用施設の完成式は10日、同市堀切の現場で行われた。下水道汚泥を安定的に処理することにも、発生したバイオマスエネルギーを汚泥の燃料化や、発電などに有効活用する施設。環境保全に取り組み黒部の顔として注目を集めてきた。

黒部浄化センター敷地内に整かすなどを混ぜ合わせ、メタン菌。市内で発生する下水道や浄化槽の汚泥、各家庭に設置されたトイレ、サウナ、お風呂、キッチンなどから発生する汚泥、排水処理施設で使う電力を通して集めた生ゴミ、飲料メーカから引き取ったコーヒ



汚泥の乾燥機などを備えた黒部市下水道バイオマスエネルギー利用施設

ボイラーで発生した蒸気は、汚泥を乾燥して燃料化する過程にも使用する。施設稼働に伴う二酸化炭素の削減効果は年間約千トンに上る見通し。敷地内には余剰エネルギーを利用した足湯も併設した。黒部市は、施設を拠点の一角に取り込んだ産業観光ルートの策定も進めたい考え。

建設には民間資本を活用したPFI方式を導入。同方式によるバイオマスエネルギー利用施設の整備は国内初のケースとなる。10日は建設した黒部市バイオマス(伊東隆治社長)から同市への施設の引き渡しが行われた。維持管理は引き続き黒部市サービスが担う。

式で、堀内市長が「下水道汚泥を安心・安全に処理することが重要。国のモデルとしたい」とあいさつ。森岡英一市議会議員、国土交通省北陸地方整備局長の松浦建政部長がそれぞれ祝辞を述べた。

つぎ玉を割って祝い、出席者は施設内を見学した。

黒部・バイオマス
利活用施設

発生ガス使い発電も

黒部市 ワイド